

ク	ラ	ブ	メ	ン	バ	ー	10	人	を	乗	せ	た	エ	バ	ー	航	空	109		
便	は	、	1	月	16	日	13	時	10	分	、	薄	曇	り	の	台	北	桃	園	
国	際	空	港	に	着	陸	し	た	。	飛	行	機	を	降	り	た	途	端	、	
湿	り	気	を	含	ん	だ	ぬ	る	い	風	が	頬	を	撫	で	る	。	こ	れ	
が	台	湾	か	と	少	し	身	構	え	た	。									
3	泊	4	日	の	今	回	の	旅	は	、	私	の	よ	う	な	台	湾	初		
心	者	で	も	楽	し	め	る	よ	う	主	要	な	観	光	地	を	巡	る	の	
で	あ	り	が	た	い	。	期	待	に	胸	が	高	鳴	る	。					
そ	の	観	光	地	の	中	で	、	近	代	の	台	湾	統	治	に	つ	い		
て	考	え	さ	せ	ら	れ	る	場	所	が	幾	つ	か	あ	っ	た	。	建	国	
の	父	、	孫	文	を	讃	え	る	「	國	父	紀	念	館	」	、	国	民	党	政
府	の	た	め	に	戦	死	し	た	靈	を	祀	る	「	忠	烈	祠	」	、	蔣	介
石	を	顕	彰	す	る	「	中	正	記	念	堂	」	だ	。	い	ず	れ	も	、	
場	違	い	な	ほ	ど	巨	大	な	建	物	に	微	動	だ	に	し	な	い	軍	
の	衛	兵	が	威	厳	を	醸	す	。											
こ	の	国	は	、	日	本	統	治	時	代	に	教	育	振	興	や	イン			
フ	ラ	整	備	な	ど	に	よ	り	急	速	に	近	代	化	を	遂	げ	た	も	
の	の	、	戦	後	、	蔣	介	石	率	い	る	国	民	党	政	府	に	対	す	
る	反	政	府	運	動	が	勃	発	。	80	年	代	ま	で	戒	厳	令	が	敷	

か れ る と い う 苦 難 の 歴 史 が あ る 。 穏 や か な 気
質 の 国 民 が 持 つ 強 い 親 日 感 情 は 、 近 代 化 を も
た ら し た 日 本 へ の 憧 憬 と 大 陸 か ら 来 た 政 府 へ
の 不 満 の 表 れ で も あ る の だ 。 統 治 す る 者 の 「
権 威 」 を か く も 誇 示 す る 必 要 の あ る 国 な の だ
と 改 め て 考 え さ せ ら れ た 。
「 國 立 故 宮 博 物 院 」 も 、 時 の 統 治 者 の 権 威
を 誇 示 す る 。 残 念 な が ら 今 回 、 有 名 な 「 翠 玉
白 菜 」 と 「 肉 形 石 」 を 見 る こ と が 叶 わ な か っ
た が 、 中 国 歴 代 皇 帝 の 膨 大 な 数 の 宝 物 は 見 る
者 を 圧 倒 す る 。 こ れ ら 所 蔵 品 は 、 国 共 内 紛 を
逃 れ て 台 湾 に 渡 っ て 来 た も の 。 文 化 財 と 言 え
ど も 、 時 代 の 波 に 翻 弄 さ れ る の で あ る 。
日 本 統 治 の 痕 跡 が 、 か つ て 金 鉞 で 栄 え た 島
北 部 の 町 「 金 瓜 石 」 に あ っ た 。 生 憎 の 小 雨 で
南 国 と は 思 え ぬ 寒 さ の 中 、 当 時 の 日 本 人 職 員
の 住 居 「 四 連 棟 」 や 日 本 国 皇 太 子 (後 の 昭 和
天 皇) 滞 在 の た め の 「 太 子 賓 館 」 な ど の 日 本
家 屋 を 見 た 。 見 覚 え の あ る 懐 か し い 佇 ま い 。

さほど遠くない昔、ここは確かに「日本」だったのだ。往時の厳しい社会環境の中で産業振興に情熱を傾けた同胞の姿が目には浮かぶ。内地はこの荒れる東シナ海の遙か遠くだ。彼らは、この地で一体何を夢見たのだろうか。

台北市内に戻り、市民の日常を見に早朝の街を歩いてみた。幹線道路には夥しい数のミニバイク。また、飲食が一切禁止されている地下鉄は清潔で、日本語の車内放送と相俟って東京にいるような錯覚を覚えた。

台湾は朝食も外食らしく、いたる所に惣菜を売る屋台が並ぶ。ホテル裏の路地で肉まん（名前は知らない）を食べたが、安くてとても美味しい。こういった庶民の味が日本のそれとは決定的に違うんだなと感じた。

夜は、有名夜市の一つ「饒河街夜市」を訪ねた。丁度一週間後に迎える春節の準備で、満員電車のような人混みだ。スリも多いと聞くが治安はよい。人が好いのだろうか。店員に

片言英語で話し掛けたら日本語で返ってくる。
 奇妙なコミュニケーションが面白い。
 店先に並ぶ名も知らぬ果物の色、漂う八角
 の匂い、BGMのような喧噪が五感をくすぐ
 る。親切な露店主、日本語上手な客引女、国
 籍不明の観光客…。旅ならではの出会いに、
 暫しエトランゼを気取り、非日常空間を彷徨
 う。そして、問屋の街「迪化街」でも然りて
 ある。
 さあ、旅の楽しみは何と云っても食事だ。
 夜毎の台湾料理、広東料理、海鮮料理に加え、
 小籠包の有名店「鼎泰豊」での飲茶。九份で
 は、清々しい香りの高山烏龍茶を土産に買った。
 経済発展の恩恵で、食文化は大陸より豊
 かであると聞く。口の肥えたクラブメンバー
 たちを黙らせる（黙っていないか）料理に皆
 大満足である。紹興酒に干し梅やレモンを添
 えて飲んだ。薄味のビールが多い中、「台湾
 ビール 18days」は芳醇な味わいで美味かった。

